

国際縄文フォーラム 火焰街道往来 2023

世界遺産と日本遺産をつなぐ

ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山

Stonehenge and Jomon



世界文化遺産ストーンヘンジ 画像提供/イングリッシュ・ヘリテージ



日本遺産「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化

2023年2月25日(土) 10:20-16:00
受付開始 10:00

新潟市民プラザホール

(新潟市中央区西堀通 6 番町 866 番地 NEXT21 ビル 6 階)

* 無料駐車場はございません。公共交通機関、または周辺の有料駐車場をご利用ください。

入場無料

申込方法 先着400席

新潟市役所コールセンター

☎025-243-4894

受付日時 / 1月24日(火)~2月21日(火)
8:00 ~ 21:00

主催 / 信濃川火焰街道連携協議会

(新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町)

共催 / 新潟県立歴史博物館 NPO ジョーモネスクジャパン

後援 / 新潟県 新潟県考古学会

<https://www.kaen-heritage.com/>

新型コロナウイルス感染症予防のためのお願い

- ・マスクの着用をお願いします。
- ・入場口での手指消毒と検温にご協力ください。
- ・体調のすぐれない方は入場をご遠慮ください。
- ・感染状況拡大の場合、入場者数を減員あるいは催し自体を中止することがあります。



日本遺産



信濃川火焰街道



新潟県立歴史博物館
The Niigata Prefectural Museum of History



SEIZENBURI 日本藝術研究所
SAINSBURY INSTITUTE
for the Study of Japanese Arts and Cultures
SEIZENBURI 日本藝術研究所
UEA University of East Anglia



Jomoneseque
Japan



The Great Britain
SASAKAWA
FOUNDATION
クレイトブリテン・ササカワ財団



佐渡を世界遺産に

Stonehenge and Japan

ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山

International Jomon Forum Kaen-Kaido-Kaido- 国際縄文フォーラム 佐渡金山 2023 世界遺産と日本遺産をつなぐ

2月25日(土) 新潟市民プラザホール

信濃川火焰街道連携協議会では、海外の研究者を交えた国際フォーラム「火焰街道往来」を開催し、火焰型土器や縄文文化の発信をはかってきました。平成14年(2002)発足の協議会20周年を記念し、国内外の研究者を招いて、世界遺産ストーンヘンジと日本遺産の構成文化財である火焰型土器、世界遺産になった縄文遺跡群、そして世界遺産を目指す佐渡金山を取り上げた講演、報告、討論(パネルディスカッション)の場を設けます。

受付開始 10:00
開会挨拶 10:20 信濃川火焰街道連携協議会 会長 中原 八一(新潟市長)
趣旨説明 10:25 小熊 博史(長岡市立科学博物館 館長)

講演1 10:30~11:20
世界遺産 ストーンヘンジ
ヘザー・セビア 博士(イングリッシュ・ヘリテージ ストーンヘンジ 管理官)

講演2 11:20~12:10
英国の文化財
マーティン・オールフリー 博士(イングリッシュ・ヘリテージ 西地区文化財 管理官)

*通訳・解説
サイモン・ケイナー 博士(センインズベリー日本藝術研究所 所長)

報告1 13:10~13:40
世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群
長沼 孝 氏(北海道埋蔵文化財センター 理事長)

報告2 13:40~14:00
日本遺産「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
石原 正敏(十日町市博物館 館長)

報告3 14:00~14:20
佐渡金山世界遺産登録へ向けて
澤田 敦 博士(新潟県世界遺産登録推進室 室長)

討論 14:30~15:30
パネルディスカッションー世界遺産と日本遺産をつなぐ
*コーディネーター 宮尾 亨(新潟県立歴史博物館 研究員)

総括 15:30~15:55
縄文外交を担う火焰型土器
小林 達雄 博士(國學院大學 名誉教授・信濃川火焰街道連携協議会 顧問)

閉会挨拶 15:55 信濃川火焰街道連携協議会 副会長 滝沢 亮(三条市長)
閉会 16:00



Dr Heather Sebire



Dr Martin Allfrey



Dr Simon Kaner



Takashi Naganuma



Dr Atsushi Sawada



Masatoshi Ishihara



Dr Tatsuo Kobayashi

日本遺産「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化

約8,000年前、日本海に暖流が流れ込むようになって以降、信濃川流域は世界有数の豪雪地となった。多雪に由来する豊富な水は、落葉広葉樹林を拡大させ、多種多様な動植物を育んだ。そうした環境と人との対話が、縄文時代にはじまる雪国の文化を育んだ。約5,000年前、日本列島各地方に個性的な縄文土器のデザインが林立した。現代人を虜にする奇抜な造形の火焰型土器は、雪国の文化を象徴する縄文土器である。火焰型土器は信濃川上流から河口まで途切れなく大量に発掘されている。信濃川流域約130kmにわたり、他に類をみない規格性の高い火焰型土器のデザインが共有され、雪国の一体感を示している。「信濃川火焰街道」「かえんどきのくに」を名乗る所以である。その一方で、いま実際に信濃川流域を上流から下流まで往来すれば、同じ雪国にあっても、各地で地形的特性や自然景観、都市化の度合い、冬の積雪量などの違いを肌で感じられる。また、地産地消されている季節感豊かな食を筆頭に、縄文時代以来の伝統を継ぎ、サステナビリティを感じさせる雪国の多彩な産物をそれぞれの場所で享受できる。こうした雪国の文化は、春夏秋冬、信濃川流域を訪問することなく体感できない。



日本遺産